

施工要領書

施工は浄化槽設備士の資格を有する施工者が施工図面、仕様書及び浄化槽工事の技術基準に基づき施工を行ないます。

設置場所は、台所、浴室、洗面所、トイレと浄化槽、放流先をできるだけ最短距離で結ぶ場所で維持管理の容易な所を選定し、屋内や床下に設置することは絶対に避けてください。

また、放流先については放流承認書を提出しなければならない場合がありますので、所轄の保健所で放流の可否を確認してください。

申請に必要な図面（認定シート）は弊社にお申しつけください。

設置場所の確認事項

- (1) 許容地耐力 5.0 t/m^2 以上必要です。
- (2) 冬期最深積雪量は 30cm とします。
- (3) 施工に必要な広さ及び浄化槽機材の搬入、残土搬出に必要な広さ

型 式	施工に必要な広さ (m×m)	浄化槽機材の搬入、残土搬出 に必要な広さ(m×m)
DOS-5LX	1.8×3.3	3.0×3.0
DOS-6LX	2.0×3.5	3.0×3.0
DOS-7LX	2.1×3.7	3.0×3.0
DOS-8LX	2.2×3.8	4.0×4.0
DOS-10LX	2.5×4.0	4.0×4.0

- (4) 浄化槽の流入管、放流管の管底寸法

型 式	GL～流入管底(m×m)	GL～放流管底(m×m)
DOS-5LX	260	410
6LX		
7LX		
8LX		
10LX		

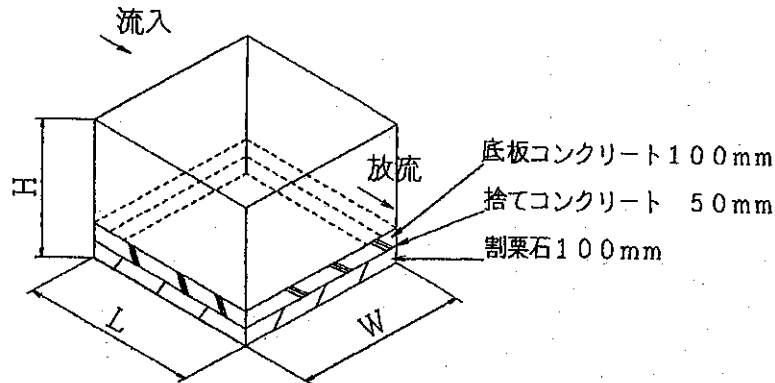
注記) 浄化槽マンホール枠の上面はGL+20mmの位置で、上版コンクリートの仕上がり面となります。

また、嵩上げの高さは、設置後の保守点検、掃除の容易さを考慮して、30cm以内とします。

施工の手順（標準工事）

（1）掘削

浄化槽の設置場所を選定したら、下表に示す寸法で掘削を行ないます。湧き水のある場合には、ポンプ等を用いて排水しながら作業を行なってください。また、掘削面に尖った石等が突き出ている場合は、取り除いてください。



(mm)

	DOS-5LX	DOS-6LX	DOS-7LX	DOS-8LX	DOS-10LX
H	2010				
L	2520	2990	3500	3290	4110
W	1420			1680	

※深さH寸法は標準の掘削寸法です。流入管の勾配は1/80~1/100とし、起点柵から浄化槽の流入管まで勾配がとれない場合には、特殊埋設工事の頁を参照してください。

（2）基礎工事

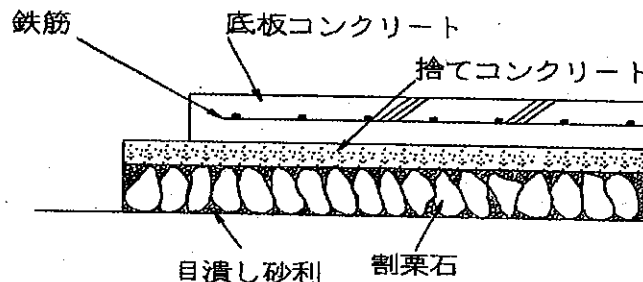
1) 基礎事業

掘削終了後、底部に割栗石を敷き十分に突き固めます。栗石の隙間には切り込み砂利を敷き、ランマ等で転圧します。割栗石の厚みは100mm程度とし、その上に捨てコンクリートを50mm程度打設し、木ゴテ等で水平に仕上げます。

（掘削レベルが深すぎた場合は捨てコンクリートの厚みで調整します。）

2) 底板コンクリート

捨てコンクリートの上に墨出し、型枠取付、配筋作業等を行い、底板コンクリートの打ち込みを行います。厚みは100mmとし、打ち込み前に異物などを取り除き掃除して散水をしてください。打ち込み後は十分に硬化するまで養生してください。



(3) 本体据付

底版コンクリートの上に、通り芯そう本体の位置などの墨出しを行い、槽本体の吊りあげ用フックにワイヤーロープを通し、4点で吊りあげます。

据付は、底版コンクリートの上に小石等を落さないように静かに吊り降ろします。

	DOS-5LX	DOS-6LX	DOS-7LX	DOS-8LX	DOS-10LX
本体重量	200kg	260kg	320kg	380kg	470kg

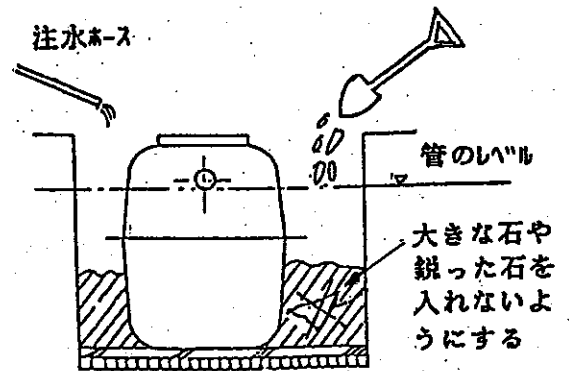
槽本体が傾いて設置されると水流の偏り等で、処理機能に支障が生じ、水質に悪影響を与えます。

万一底版が水平に仕上がっていない場合は、ライナを槽の底に入れて調整し、その隙間には必ずモルタルを充填してください。(砂等での調整は避けてください)

(4) 水張り及び埋め戻し

槽本体を安定させるため、槽内の水張りを行います。また、各槽内の水準目安線により本体の水平を確認し、漏水試験を行ってください。埋め戻しに際しては、まず本体の中に土砂が入らないように開口部を覆い、山砂を使用して大きな石等が混ざらないように注意しながら行います。

埋め戻し中は水締めを行います。



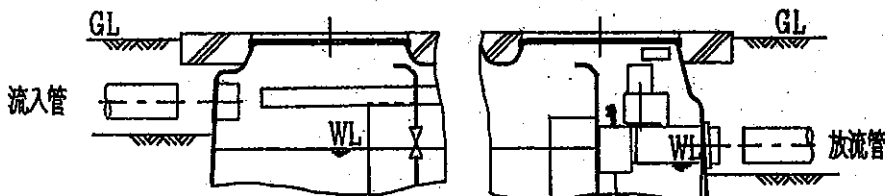
(5) 残土処理

掘削した土の量は地山の20%増加することを考慮し、処理方法を事前に決めておいてください。

(6) 配管接続

1) 流入・放流配管

槽本体の管のレベルまで埋め戻したところで接続します。流入管、放流管は硬質塩化ビニール管VU100(VP100)を使用し、浄化槽接続口の継手に接着剤でしっかり固着してください。



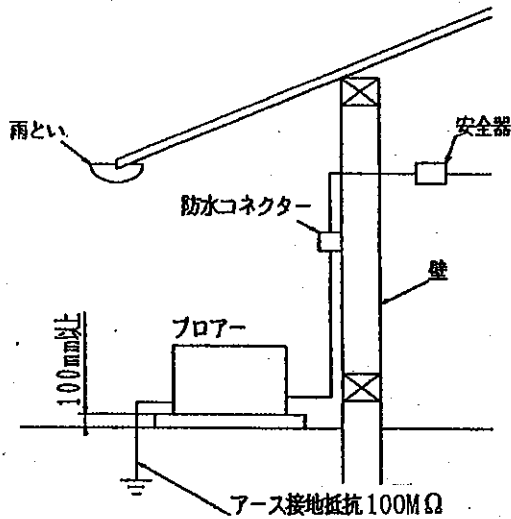
2) 空気配管

ブロワと浄化槽本体間の送気配管は塩化ビニール一般管VP13を使用し、接合部は接着剤でしっかりと固着してください

- ・露出配管となる場合は鋼管を使用してください。
- ・配管の長さはなるべく短く（5m以内）、曲がり数も最小限（5ヶ所以内）に抑えて配管してください。
- ・配管の土かぶりは、地下10～20cmに埋設し、上部に荷重がかかる場合はスラブを打設して下さい。

(7) ブロワ設置

ブロワは浄化槽最寄りの風通し、水はけのよい保守点検の容易な場所を選び、建物から離れた基礎（GL+100mm）の上に固定してください。

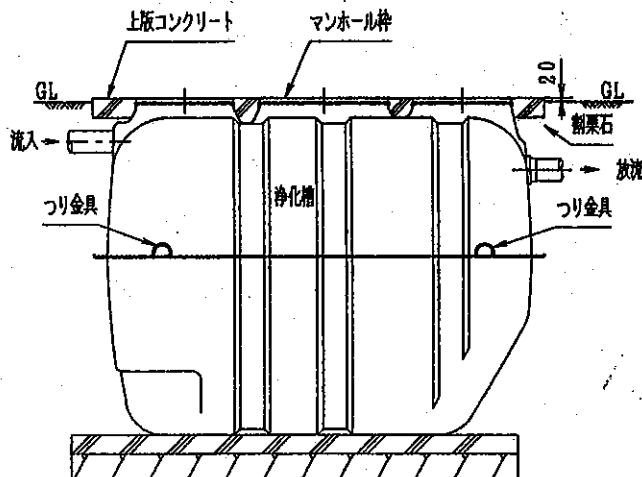


- ・屋根からの雨水等がかからないようにしてください。
- ・浄化槽水面より必ず上に設置してください。
- ・電気工事は、電気工事有資格者により行われるように定められていますので、資格者に依頼して下さい。
- ・第三種設置工事を行い、専用電源としてください。

(8) 上版コンクリート

前項の基礎工事と同様の手順で、埋め戻し土の付き固めが十分に行われ、地盤が安定してから施工を行います。

コンクリート上面はGL+20mmとし、表面をモルタルで仕上げ、雨水がマンホールから浄化槽内に進入しないように水勾配に注意してください。



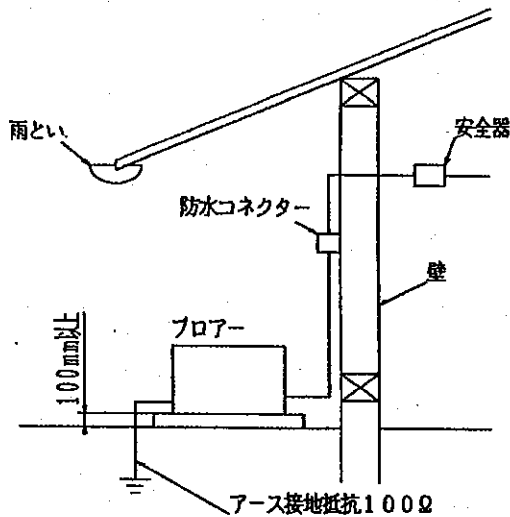
2) 空気配管

ブロワと浄化槽本体間の送気配管は塩化ビニール一般管VP13を使用し、接合部は接着剤でしっかりと固着してください

- ・露出配管となる場合は鋼管を使用してください。
- ・配管の長さはなるべく短く（5m以内）、曲がり数も最小限（5ヶ所以内）に抑えて配管してください。
- ・配管の土かぶりは、地下10～20cmに埋設し、上部に荷重がかかる場合はスラブを打設して下さい。

(7) ブロワ設置

ブロワは浄化槽最寄りの風通し、水はけのよい保守点検の容易な場所を選び、建物から離れた基礎（GL+100mm）の上に固定してください。

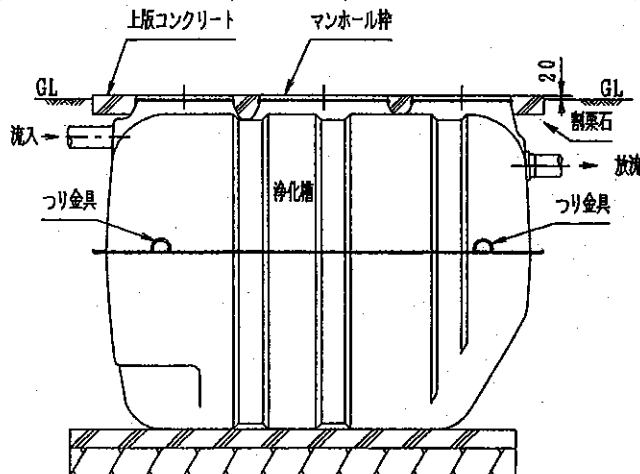


- ・屋根からの雨水等がかからないようにしてください。
- ・浄化槽水面より必ず上に設置してください。
- ・電気工事は、電気工事有資格者により行われるように定められていますので、資格者に依頼して下さい。
- ・第三種設置工事を行い、専用電源としてください。

(8) 上版コンクリート

前項の基礎工事と同様の手順で、埋め戻し土の付き固めが十分に行われ、地盤が安定してから施工を行います。

コンクリート上面はGL+20mmとし、表面をモルタルで仕上げ、雨水がマンホールから浄化槽内に進入しないように水勾配に注意してください。



(9) 試運転・検査

工事が完了したら、下記のチェックリストに基づき、機器の作動状況の確認を行います。

検査項目	チェックポイント	欄	検査項目	チェックポイント	欄
1. 流入管渠梁及び放流管渠の勾配	汚物や汚水の停滞がないか		12. 消毒設備の変形、破損、固定の状況	消毒設備に変形や破損はないか	
2. 放流先の状況	放流口と放流水路の水位差が適切に保たれ、逆流のおそれはないか			しっかり固定されているか	
3. 誤接合等の有無	生活排水が全て接続されているか			薬剤筒は傾いていないか	
	雨水や工場排水等が流入していないか			越流せきは傾いていないか	
4. 弁の位置及び種類	起点、屈曲点、合流点及び一定間隔ごとに適切な弁が設置されているか。		13. ポンプ設備（流入ポンプ及び放流ポンプ）の設置、稼動状況	ポンプ弁に変形や破損はないか	
5. 流入管渠、放流管渠及び空気配管の変形、破損のおそれ	管の露出等により変形、破損のおそれはないか。			ポンプ弁に漏水のおそれはないか	
				ポンプが2台以上されているか	
				設計どおりの能力のポンプが設置されているか。	
6. かさ上げの状況	バルブの操作などの維持管理を容易に行うことが出来るか			ポンプの固定が十分行われているか	
				ポンプの取り外しが可能か	
7. 浄化槽本体の上部及びその周辺の状況	保守点検、清掃が行いにくい場所に設置されていないか。			ポンプの位置や配管がレベルスイッチの稼動を妨げるおそれはないか。	
	保守点検、清掃の支障となるものが置かれていないか。		14. プロワの設置、稼動状況	防振対策がなされているか	
	コンクリートスラブが打たれているか。			固定が十分行われているか	
8. 漏水の有無	漏水が生じていないか			アースはなされているか	
				漏電のおそれはないか	
9. 浄化槽本体の水平の状況	水平が保たれているか。		上記の通り確認したことを証します 年 月 日		
10. 接触材等の変形破損、固定の状況	嫌気濾床槽の濾材及び接触ばっ気槽の接触材に変形や破損はないか。				
	しっかり固定されているか				
11. ばっ気装置、逆流装置及び汚泥移送装置の変形、破損、固定及び稼動状況	各装置に変形や破損はないか。		施工店名 担当浄化槽設備士 浄化槽設備士免状の交付番号	印	
	しっかり固定されているか				
	空気の出方や水流に片寄りはないか				

(10) 引き渡し

所轄の官庁の竣工検査を受けた後、使用説明書、保証書を設置者に渡し、正しい使用方法や注意事項を説明して引き継ぎを行います。

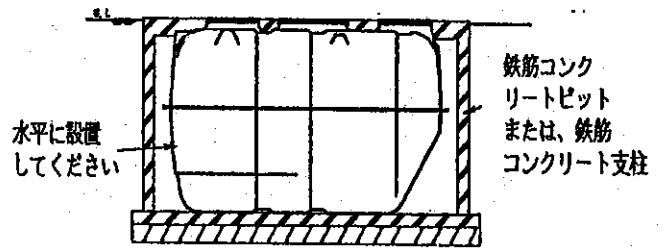
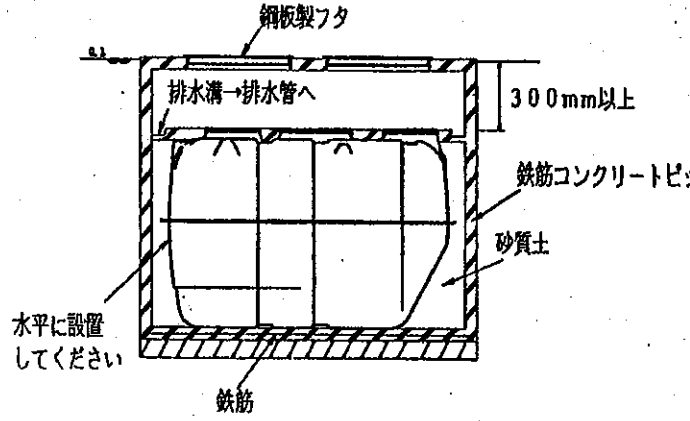
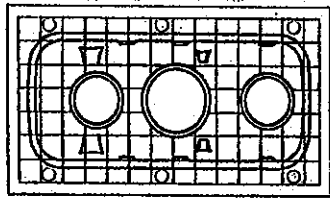
(11) 特殊埋設工事

1) 深埋め

埋設場所の都合等で本体を深埋めし、嵩上げが必要な場合は別売の嵩上げソケットを必要寸法にカットしてご使用ください。マンホールソケットは水平に取り付け、本体との接合部は外側をモルタルで巻くか内側にシリコンシーラントを詰め、雨水等が入らないようにしてください。(嵩上げの範囲は30cm以内です。)

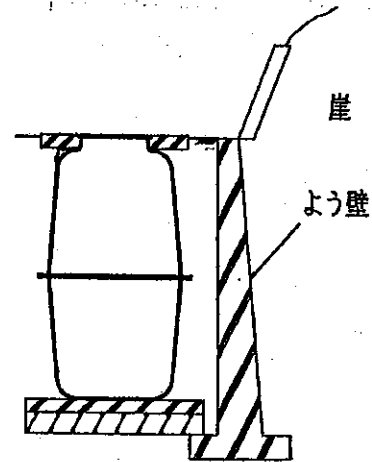
2) 車庫内に設置する場合

車庫や通路など車の通る場所等上面に大きな荷重がかかる場合は、上図の要領で施工してください。



3) 大きな荷重のかかる場所に設置する場合

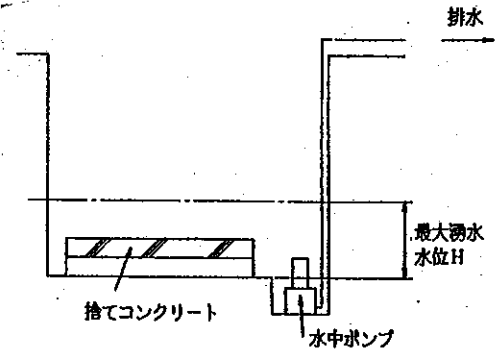
崖下や交通量の多い道路端等、大きな荷重のかかる場所等に設置する場合は下図のようにヨウ壁を設け、土圧が直接本体にかからないようにしてください。



4) 湧水及び地下水位が高い場合

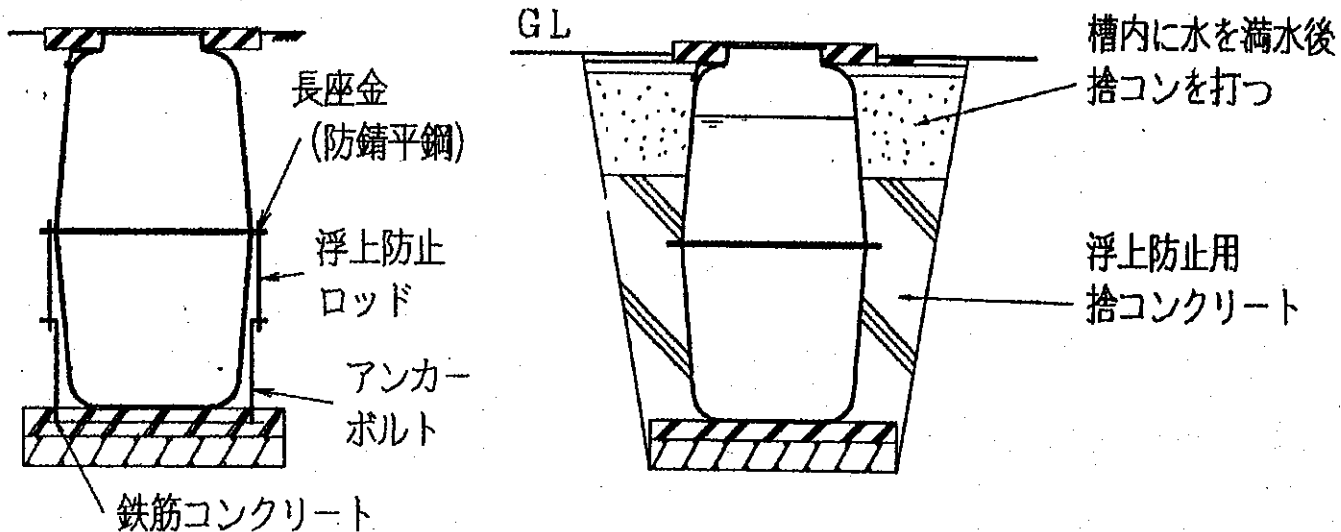
掘削作業後下図のように排水ポンプで水を汲み上げながら栗石、砂利、捨てコンクリートで水平に基礎を作ります。基礎コンクリートの上に槽本体を置き槽内に湧水の水位以上に水を張り浄化槽本体を安定させてください。

湧水の最大水位がH=300mm以下の場合はそのまま埋め戻し、標準工事を行なってください。



H寸法が300mm以上の場合は、①図のような浮上防止対策を行なってください。

①槽体と基礎をアンカーボルト及び
ロッドにて結合します



5) 複数の浄化槽を設置する場合

浄化槽が複数の場合の基礎工事は、地盤の沈下等で槽間の位置関係に支障がないように連続基礎としてください。槽間が離れている場合は各々に基礎杭を打ち、不同沈下を防いでください。

6) 積雪地、寒冷地対策

積雪量が多く、浄化槽の維持管理が困難な地区では必要に応じて浄化槽の上に建屋を立ててください。積雪量が30cm以上になる地区で建屋を建てない場合は、「深埋め」の項を参照して槽本体を保護してください。

また、寒冷地では浄化槽の水面が凍結深度より深くなるように設置してください。

※特殊埋設工事の際でも前頁の標準工事の手順をよくお読みになり、記載しております注意事項等は必ずお守りいただくようお願い致します。